

令和2年度第1回高梁市公共交通会議議事録（要旨）

日時：令和2年10月2日（金）10：00～11：40

場所：高梁市役所 3F 大会議室

資料：・会議次第、委員名簿、席次表
・第1回高梁市公共交通会議資料

1. 開 会

人事異動等による委員等変更のお知らせ
会議成立報告

2. 会長あいさつ

藤澤会長

3. 議 事

- ・報告(1) 令和元年度 生活福祉バス・ふれあいタクシー利用者数の推移

（事務局説明）令和元年度 生活福祉バス・ふれあいタクシー利用者数の推移
（質疑・意見等）

- ・人口減少に比べて利用者の減少が多い理由は。
→（事務局）高齢者の免許保有者が増加しており新規の公共交通利用者が増えない。
通院等で定期的な利用をされる方が減ると大きく減少する。
- ・利用者が減少するとコストが増加し移動手段の確保が困難になる。利用者減に対する方策は。
→（事務局）利用促進の取り組みも重要だと認識している。地元の状況にあわせた運行時刻の変更等で利用者の維持を図る取組も行っている。人口減少の中で利用者の維持・利用促進にも限界があるため、昨年度策定した計画の中で見直し基準を設けており、コスト的に厳しい路線も出てくると思われるので、全体でバランスを見ながら見直しをしていく必要がある。
- ・高梁の免許返納者はどのくらいか。返納する気があっても移動が不便になるため返納できない人がいると聞く。
- ・（専門員：交通課）65 歳以上の免許返納者の希望者に様々な割引があるおかやま愛カードを交付している。月に数十件、年で数百件程度交付しており、返納者はもっと多くなる。返納の専門ダイヤルや警察署での認知機能の確認、家族の代理申請等もできるようにしているので活用して欲しい。

- ・議事(1) タクシー利用助成制度の実証実験について

（事務局説明）タクシー利用助成制度の実証実験について

(質疑・意見等)

- 趣旨は十分理解できる。今は実証実験だが広域的に広がった場合市の負担が大きくなる。長期的な視野でのコスト、一般タクシーの乗務員を確保できるだけの人材が高梁市にいるかどうか、通常の公共交通の時間帯での利用に限定すべきか等の課題がある。
- (事務局) 長期的には負担が増えていくため、導入の際はその地域の公共交通を整理していく必要がある。事業所の開設支援や2種免許取得支援も並行してやっていく必要がある。
利便性の確保のため利用時間の制限は考えていないが、実証実験の中で検証を進めていきたい。
- 実証実験中に生活福祉バス・乗合タクシーを廃止するのはどうか。本格運行ではないのでうまくいかなかった場合も想定する必要がある。廃止していると戻せない。
対象者は限定しなくもよいのではないか。利用者は高齢者が多いだろうが、30~40代の方が公共交通を使いたい時にどうするのか。
高齢者福祉の事業として対象を限定して行なうならよいが、生活交通の対策なら誰でも使える制度にすべき。
- (事務局) 公共交通費用の削減も目標にしており、実証実験といえども経費を投入する以上はタクシー助成制度導入のタイミングまたは早い時期に休止・廃止したい。まずは65歳以上で免許を持たない方、高梁市で一番通院や買い物で困っている人を対象にしたい。対象範囲についても実証実験の中で検討していく必要がある。
- 実証実験であっても休止・廃止を進めるが、対象範囲は実証実験だから検討したいとは、「実証実験」という言葉を都合の良いように使っているとは思えない。
県内でもタクシー助成の事例はある。こういうやり方もあることは分かるが、廃止すると戻すことはまず考えられない。2種免許取得支援をしている自治体もあるがなかなか伸びていないと聞いている。公平性を少しでも担保して生活交通の取り組みするなら対象を限定しない方がよいと考える。
- (事務局) 公共交通のあるべき形を考える必要があるが、まずは今の形で試行させていただきたい。対象地域は空白地や生活福祉バス、乗合タクシーを導入して利用がなかなか伸びない箇所でも乗りたい日時が合わない等の問題がある。実証実験は対象者だけでなく幅広い層の声を聞きながらやっていきたい。
- タクシー助成を行っている自治体は多くなっているが採算が取れたところは電話予約等でうまく事業者が回っている。乗合利用も想定する必要がある。公共交通はマイカーとは違うこと、多少の不便はご理解いただく必要がある。
- (事務局) 利用者が自主的に乗り合って利用することは可能なので市からも促していきたい。
- (専門員: 運輸支局) 一般タクシー活用は利便性が上がる。利用者の自発的な乗り合わせはよいが、事業者側で乗合を斡旋するのは法的にひっかかる場合もある。
- 乗合タクシーでお金が無くなったと聞いたことがある。高齢なので間違いもあったかもしれないが乗合ならではの問題もある。

- ・乗合のリスクはある。管理の窓口はどこか等を考えずにコストだけで乗合いを考えるのは危険。法制度上問題のない形で市で落としどころを考えて欲しい。
- （事務局）事業者間の調整は難しいと思う、乗合タクシーとは異なるので、利用者が負担を減らすために近所で声をかけて乗合いをするような形を促していきたい。

— 議事承認 —

- ・議事(2) 第2次計画に基づく今後の地域公共交通の見直しについて
（事務局説明）第2次計画に基づく今後の地域公共交通の見直しについて
（質疑・意見等）

・人口減でしかたないが経費削減が前に出すぎているのではないか。4条路線が一番コストがかかるところだと思うし、人が乗らないバスが走るのは住民感情的にも厳しいと思うが、一度辞めたら資材も人員もなくなってしまうので元には戻らない。

4条路線の廃止と合わせて福祉バスや乗合タクシー等の代替運行の確保して欲しい。住民がいる限りは乗合タクシーやタクシー助成でカバーして欲しい。公共交通は大きな社会インフラであり、住民で守っていく必要がある。

→（事務局）1次計画では網形成ということで公共交通空白地をなくすことを進めていた。行政運営、市民の満足度の向上を考えて2次計画を策定して持続可能な公共交通体系の構築を進めていく。

- ・見直し対象5路線のうち4路線が備中地域に関係しており、備中地域が不便になる。乗合タクシーがあるといっても、救急ではないが急に病院に行く際は予約が必要な乗合タクシーは使えない。きちんと地元の声を聞いてください。

- ・田原～平川の見直し検討となっているが平川～高梁も見直すのか？

（事務局説明）田原～平川の見直し検討であり、平川～高梁ではない。

- ・路線バスの利用者がH30年から急に減少しているが理由は何かあるか。

→（事務局）全体の理由としては、年数回の調査日の利用者数なのである程度の変動が想定される。

→（委員：バス事業者）大きく減少しているのは備中中学校の閉校の影響が予想される。

→（事務局）今回の見直し対象路線は、2次計画で定めた基準により機械的に選定したもので、実施計画の素案を作成するための方向性についてご承知いただき、皆様からいただいた意見を参考にさせていただきたい。

特に4条バス路線は、乗り継ぎなど複雑であるため、バス事業者の方とも協議をさせていただきながら、次回会議に実施計画の素案をお諮りしたい。

4. その他
なし

5. 閉 会
村上副会長